

東日本大震災 今、私たちにできること

このたびの東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。



3月11日(金)午後2時46分頃、三陸沖を震源とする国内観測史上最大となるマグニチュード9.0の巨大地震が発生。最大震度7を記録し、巨大津波を引き起こしました。4月25日午前10時現在の警察庁発表による人的被害は、1都1道17県で死者14,340人、行方不明者11,889人、負傷者5,314人、避難をしている人は130,910人。

被災地では、今も余震が続く中で救助活動と被災者援助活動、福島第一原子力発電所事故の沈静化にむけた作業が懸命に続けられています。甚大な災害を前に私たちは、被災地のために何ができるのでしょうか。そして、今後30年間で87%の確立で発生するといわれている東海地震のために何ができるのでしょうか。

写真提供：下田地区消防組合（写真は福島県相馬市内）
下田地区消防組合から被災地の写真の提供を受け、広報掲載の可否を考えましたが、今後の重要な記録として掲載させていただきました。

津波による避難勧告を発令

本市においても、この「東北地方太平洋沖地震」により、本市中で震度3を記録し、同日午後2時49分に静岡県沿岸に「津波注意報」、その後「津波警報」となり、最終的に午後4時8分「大津波警報」が発令されました。それに伴い、本市沿岸部地区（白浜、浜崎、下田、朝日）に避難勧告を午後4時19分に発令（本市の避難勧告は翌日午後2時15分に解除）。各地区6か所に避難所を開設、伊豆急行線運転見合わせにより下田駅構内で足止めされていた観光客も含め、計579人が避難しました。また、地震発生時間が、市内小中学校の下课時間と重なり、一部の子供は、夜まで学校で避難することになりました。

また、この地震により、下田市警戒本部（本部長・石井直樹市長）を設置し、津波による被害状況の把握などの対応を行いました。

その結果、津波の影響で、市内大川端・弥治川周辺で浸水被害13件、また、稲生沢川河口に係留していた船が、市内立野にある本郷橋周辺まで、流される被害がありました。人的被害はありませんでした。



▼大川端周辺は津波により浸水

▲本郷橋周辺まで流された船

物的支援について

市では県からの要請に基づき、3月15日に防災用毛布300枚を、また3月24日に飲料水（480ℓ）480本を静岡県トラック協会を通じて、陸上自衛隊富士学校へ搬入し、被災地に届けられました。

人的支援について

①下田地区消防組合では、3月23日から救急車・消防指揮車1台ずつと救急部隊3人、後方支援部隊2人の計5人を県内消防で構成される緊急消防援助隊静岡県隊の一員として派遣しました（同組合は、第5次から第7次静岡県隊に参加要請され、総勢15人が派遣）。②県からの要請に基づき、市職員1名を被災地に派遣し、支援物資の配送、避難所の運営支援、支援ニーズ調査など従事しました。

被災者受入について

被災地から市内へ避難された方に対し、災害支援金・見舞金を支給するほか、国民健康保険加入や保育所入所など、市で行う行政サービス手続簡素化と速やかな受入を図ります。

被災の現場から

緊急消防援助隊 静岡県派遣隊



下田地区消防組合 救急救命士 長田勝浩

下田地区消防組合の長田勝浩救急救命士は、緊急消防援助隊静岡県第5次派遣隊の救急部隊長として、3月27日まで被災地へ派遣されました。主な活動拠点は福島県いわき市で、被災した病院の入院患者を正常に機能している病院まで搬送する任務を行いました。また、同市は被災した福島第一原子力発電所から約40kmだったため、長田隊長自身も放射線量計を携行し、厳しい状況下での活動でした。

—どの様な現場だったのか？

長田 被災した病院は建物自体大きく新しい病院であったにもかかわらず、1階部分は全て破壊され、大量の砂に覆われていました。阪神淡路大震災とは違う津波の破壊力に唖然としました。病院の周囲には高台がなく、入院患者や病院関係者は生きた心地はしなかつただろうと思います。また、いわき市街地は閑散と

災害に見舞われても次世代に引き継げる町を、皆が知恵を出し合って作って行かなければと思います。また私自身、子供と共に被災地を訪れて、あの絶望的な状況から東北が復興していく様子を見せたいと思っています。



▲被災病院から別の病院へ患者を搬送

し、そこから8kmほど海沿いにある進出拠点から見えた景色は、広大な畑が波にさらされた跡が残り、車数台が転がっていました。被災病院へ向かう幹線道路も多量の砂に覆われ、病院関係者と思われる人達の手によって、やっと車1台が通行できるように除去作業が行われていました。

—悲惨な現場を見て、市民の人たちへ伝えたいことは？

長田 東海地震は必ず来ます。もう一度家族で避難の約束事を決めておくことが必要ではないでしょうか。



▲津波によって流された漁船や車

「この東日本大震災で、今、私たちにできることは何だと思えますか？」
長田 伊豆半島沖地震や伊豆大島近海地震を体験している私たちは、支援や激励のありがたさを身をもって知っています。被災地へ私たちができることは、風評に惑わされず個々ができることを考えて、実際に行動をおこすことではないでしょうか。

インタビュー後に、長田隊長からもっと現地に留まり活動をしたかったという本音や、夜は気温が氷点下6℃になり、装備をしていたにもかかわらず目が覚め、毛布1枚での避難生活は筆舌に尽くしがたいなどのお話も伺いました。長田隊長をはじめ派遣された隊員の皆様、下田の代表として活動されたことに感謝申し上げます。

東日本大震災義援金口座一覧

	口座番号	加入者名
郵便局	00140-8-507	日本赤十字社 東日本大震災義援金
静岡銀行	本店営業部 普通 1554261	日本赤十字社静岡支部 東北関東大震災義援金
清水銀行	静岡支店 普通 2549627	日本赤十字社静岡県支部 東北関東大震災義援金
スルガ銀行	静岡支店 普通 2891384	東北関東大震災義援金

※期間中の振込手数料は免除されます。受領証についての詳細は右記までお問い合わせください。